



想定以上の寒さと戦い、力を振り絞り20位着

予選 22位 /31台中 1'45.059 (TOP +1.346) ▶ 11月29日(土) 12:00 開始

T2 FACTORYは、2019年の開設時より「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」に継続参戦しており、社員で専属チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた56号車「栃木トヨタT2FACTORY BS GR86」に、社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗しています。また、毎戦ごとに各店舗からエンジニア2人がメカニックとして帯同し、レースを通じて技術を磨いています。

今シリーズの最終戦となる第7戦「岡山国際サーキット」(以下、「岡山」)大会が、11月29日(土)~30日(日)に開催されました。シーズン途中で新車にスイッチした当チームのマシンは、今大会も変わらず好調かと思われましたが、他チームはそれを凌駕する早さで進化を遂げていました。寒さとコンディション変化を読み切る技術と経験が問われる大会でした。

当チームは水曜日から練習を開始しました。車両の走り出しは好調だったため、テストメニューはマシンセットアップではなくタイヤの使用方法について理解を進めることに集中した内容となりました。岡山は路面のグリップ感が変化しやすく、毎回悩まされてきたサーキットです。また、この週は直前の雨を境に急激に冷え込み、タイヤやブレーキが最も性能を発揮できる温度にすることが難しい状況が想定されました。28日(金)は、まず1走行目の特別スポーツ走行で見当をつけたのち、2走行目の専有走行で新品タイヤを続けざまに2セット、設定条件を変えて使用し、本番にむけてデータ収集を進めました。

29日(土)は雲一つない快晴で、一段と寒さ深まる日となりました。前日までの練習走行で、冷えた路面の影響でタイヤの温度が上がらない傾向にあったことから、各チーム間ではタイヤの熱入れに何周を充てるかで戦略が分かれていました。当チームは集めたデータをもとに、練習では試していなかったウォームアップラップを含む2周後の計測開始を決断し、予選開始と同時にコースへ出ました。多くの車両は同じくウォームアップに時間をかける選択をしましたが、従来通り1周目でアタックを開始した車両はタイヤの性能を使い切れず思うようなタイムが出ない様子でした。当チームはぶっつけ本番でウォームアップ方法を変更したものの、まずまずのタイムで計測を終えました。走行を終えてピットへ戻った時点での暫定順位は10位でしたが、多くのチームが路面状況の改善を予想し後半に走行したことで順位が落ちていきました。この予選では、出走した31台のうち当チームを含む24台が昨年の同会場のコースレコードタイムを上回り、トップはレコードを約1.5秒縮めるなど、ハイレベルな予選アタック合戦が繰り広げられました。僅かなミスでも順位を大きく落とすほか、以前の大会では上位につけているチームがタイヤの性能を引き出し切れず下位に沈むなど、様々な面で試される予選となりました。当チームは最終的に22位グリッドを獲得し、決勝レースを中団からスタートすることになりました。



決勝日は真冬のような凍える朝から始まりましたが、日が高く昇るにつれて徐々に寒さがやわらいでいき、絶好のレース日和となりました。周回数が多いため、序盤は落ち着いて順位を守り、周囲を走る車両がパフォーマンスを落とす後半で順位を上げる戦略とし、本年最後の決勝レースに臨みました。スタートダッシュはうまく決まり、同じくスタートを決めた前走車とともに第1コーナーで中団の好位置につけました。混雑し行き場を失った複数台の車両をまとめて追い抜きましたが、続く2コーナーから先で度重なる混乱によりラインを塞がれ、順位が後退しました。1周目の最終コーナーで、1台の車両がコーナー外側へ飛ばされて壁に激しく接触し停止、セーフティカーが導入されました。車両の回収作業に時間を要し、当チームの周囲にいて違うメーカーのタイヤを履き相対的にペースが落ちるはずであった車両たちがタイヤを温存できたため、想定していた状況は全く変わってしまいました。5周目にレースは再開されましたが、じりじりと離され後続から次々と仕掛けられる苦しい展開が続きました。8周目に再び1台がコースアウトし2度目のセーフティカーが導入されると、ファイナルラップでレースが再開し、1周のみのスプリントとなりました。最後まで力を出し切りましたが前を追い抜くには及ばず、20位でフィニッシュしました。狭い道幅で危険な場面も多くありましたが、無事に完走し順位を上げて今シーズンを締めくくることができました。

今回のレースには、当活動に何度も参加経験のあるベテランのサービス本部社員と、この活動へ参加することを強く希望していた若年次エンジニアの計2名が同行しました。ひとりは何度も参加するうちに徐々に流れを掴めてきたということで、若手を見守りながら重作業を率先して進めたり作業方法の提案もするなど、見事な立ち回りでした。一方で、メンテナンス作業のひとつひとつに目を輝かせて取り組んでいた若いエンジニアの姿にも、チームとしてプラスの活力をもらうことができ、勇気づけられました。「普段気にしていなかった細かいところまで気を配ることができるようになった」「今の気持ちを携えてまたこの活動に参加したい」と、有意義な研修活動にしてもらえたようで何よりでした。

今大会も期間中に、お客様からメッセージを頂戴したり、遠方からはるばる現地までお越しいただいたり、その他多くのご声援をいただくことができ、励みになりました。誠にありがとうございました。

今シーズンも、ご支援をいただきました関係各社の皆様、各パーツメーカーのご担当者様、関係各位の皆様、心より感謝申し上げます。来年以降、本レースを含む活動をより充実させ、強みとして育ててまいりたいと考えます。さらなる成長のため、ひとつひとつ精進して取り組んでまいります。今後とも温かく見守っていただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



ドライバー鶴賀のコメント

低～中速で回り込むコーナーが多いコース特性により、GR86の「FR（後輪駆動）である」ことが存分に楽しめました。予選でわずかに力が入りすぎてミスをしてしまったことが申し訳なく、決勝で取り返せるよういつも以上に全力を出し尽くしました。今年も応援いただく皆さまのお陰で、大変貴重な経験をさせていただくことができました。心より感謝申し上げます。毎年のようにレベルがぐんぐん上がっていくこの最前線の環境でしかあり得ない裏話がたくさんありますので、シーズンオフは店頭までぜひお訪ねいただければと思います。今シーズンも、応援いただき誠にありがとうございました。

